

社員が働きやすい職場へ
—DX を軸にした生産性向上の取組—



代表取締役 糸永 卓見氏
営業部チーフ 坂本 妙子氏

取組概要

- 【デジタル技術などの活用による生産性向上】
 - ・水管橋や河川巡視などの調査において、ドローンや3D技術を導入
- 【日常業務の効率化】
 - ・クラウド環境を構築し、在宅勤務制度を整備
 - ・スケジュール、申請・承認などをクラウド化
 - ・全社員で共有可能な名刺管理システムの導入
 - ・ミーティングボード、WEB 会議システムの導入

取締役営業本部長 津野 裕宣氏

—在宅勤務制度の整備やクラウド環境の構築など、取組を始めたきっかけについて教えてください。

糸永代表取締役： 建設業界を取り巻く環境や構造的な課題として、技術者不足や長時間労働、アナログ業務の多さなどについて常々強い危機感を持っていました。業務効率化の必要性を感じる中、コロナウィルス感染症が発生。急遽、在宅勤務の導入を整備することになりました。

—具体的な整備内容を教えてください。

津野本部長： ルールを明確化し、社内外から安全にアクセスできるクラウド環境を構築しました。「サイボウズ Office」、「kintone」を活用し、スケジュールの共有、申請、承認、案件・備品管理、体調報告などをクラウド化。社内で継続的に改善を加えながら運用しています。特に紙の時代にあった申請の滞留が解消され、外出先でも申請・承認がとてもスムーズになりました。

また、名刺管理システム「Sansan」を導入し、名刺情報を自動データ化。人脈も会社の財産として、全社員で共有しています。従業員からは「過去に誰が訪問したとか、相手の役職の変遷なども確認でき、とても便利」と好評です。

坂本チーフ： AI 搭載のミーティングボード「MAXHUB」を導入したことにより、会議が大幅に効率化しました。オンライン・オフライン混



在でも会議が円滑に進行し、時間短縮とペーパーレス化が実現。資料準備などの負担も軽減されています。

—ポストコロナとなった今、在宅勤務制度はどう変化していますか？

津野本部長： 現在は「希望制在宅勤務」へと段階的に移行しました。中には在宅の方がパフォーマンスを上げられるという方もいるため、

働き方は社員がそれぞれ選んでいます。台風時などはリモートで業務を継続できるのも利点です。

糸永代表取締役： 最初はコロナ対策でしたが、現在は働き方改革に対応した制度になりました。採用面で「多様な働き方が選択できる」とアピールできる利点もありますが、親の介護が視野に入っている世代からは「この制度のおかげで退職せずに仕事を続けられる」と喜ばれています。



全社員のスケジュールをクラウド化

坂本チーフ： 「kintone」アプリは年配社員に配慮し、見やすく操作しやすい画面設計を心がけました。「Sansan」はスキャン体制を整え、誰でも使えるよう丁寧にフォローしました。最初は不安を感じた人や、全てのスケジュールを書き込むことに抵抗があった人もいたと思いますが、慣れてしまえば便利です、今は皆、当たり前前に利用しています。

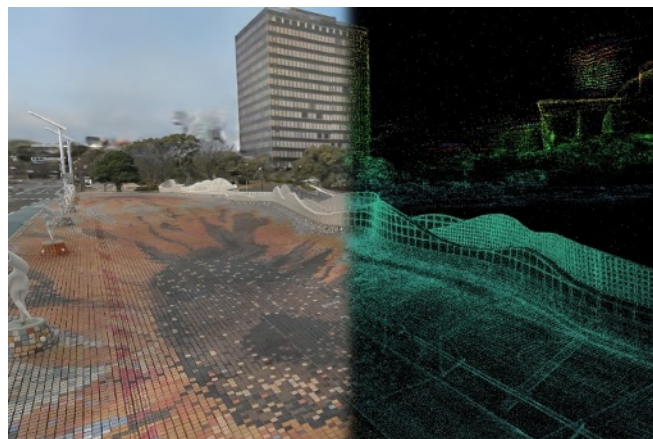


オンラインオフライン混在の社内会議

ドローンや 3D 技術を水管橋や河川巡視などの調査に導入しており、今後は 3D ソフトとの連携で更なる効率化を検討していくとお聞きしました。

糸永代表取締役： ドローンは7年前くらいから導入しています。業務としての調査はもちろんですが、地域に根ざしたコンサルとして、災害などが発生したときはすぐに駆けつけ、状況が確認できる体制づくりにも力を入れています。

津野本部長： 3D に関しては、現在 iPhone の LiDAR 機能を用いて 3D モデルを作成し、現場確認や打ち合わせ資料に活用しています。BIM/CIM のような精度はありませんが、報告書などで簡易版として使うには十分です。



3D モデルの活用

—今後の展望についてお聞かせ下さい。

糸永代表取締役： 若手の人材確保が課題なので、今回のような取り組みは、どんどん進めたいです。弊社は外国人の派遣社員も採用しており、現在は 20 代のネパール人が 3 名在籍しています。日本語も上手で、異文化交流のおかげで会社も良い雰囲気になりました。やはり「若い世代から選ばれる会社になりたい」という思いを強く持っていますので、これからも新しいことにチャレンジしていこうと思います。

株式会社太平設計

業種	設計（上下水道、道路など）、測量
代表者	代表取締役 糸永 卓見
従業員数	46人
所在地	北九州市小倉北区下富野一丁目6-21
HP	https://www.taihei-sekkei.co.jp/
電話番号	093-551-1413

